

きさかたや雨に西施が夜の花
汐越しや鶴脛ぬれて海涼し

〔東遊雜記〕^三象潟の勝景は此地なり、市中五百軒商家漁家交りて大概の町なり、船入自由ならずして、大船は五六艘ならでは入らず、小船は橋の下までも入る事なり、○中 扱象潟の事は、世に名高く、八十八潟、九十九島、一眼に見へ渡りて、風景松島につゞきて、無雙の勝景と稱譽せる所ゆへ、予年久しく一見の大望なりしに、幸ひを得て此日爰に來りて、委敷一覽せしに、百聞一見に不及とて、兼て思ひしとは大ひに違ひて、名高き程の勝地にあらざるゆへに、一度は方を落し、一度は世人の愚眼を思ひぬ、古しへはゑらず、今は一眼に見渡せる事は、他山に登りて一見せばいかならんや、蚶満寺の境内よりは八十島は見ゆる所なし、北の方には民家の墓所にて見苦敷、南東の方には兼くろなど云るをのせならべ、干潟は無名の草茂り、枯木破竹杯打散てきれいなる所は稀なり、汐入僅なる口より差こみ、蚶満寺をくるくくと取廻して、島々の風景も廣く、あしき所にはあらざれども、名に聞しよりは悪し、九州薩摩の坊の津、櫻島杯にくらべ思ふに、櫻島坊津勝たり、此地はいかゞの事にて名の高き事にや、不審なる事なり、

〔東國旅行談〕^三象潟

羽州第一の名所にして、絶妙風景の地なり、○中 扱きさかたの風景は、日本無雙の名地なり、海をさる事一里二十町あり、潮まづかにさし來る入江なり、水のたまりを潟といふ、因て此名をよぶ、八十八潟、九十九まあり、中にも松島、入潮島、辨天島、法性島等は、別して風景よきゆへにや、旅人近村の人多く集り、辨當さ、へを携て酒宴を催し、春の日の永々まきも短しと疑ひ、家に歸る事をわする、實にもことほりなるかな、其絶景中々筆には盡がたし、扱島より島にわたりて遊に、潟の淺きこと大潮小汐によらず、膝をすぎず、潮汐のさしひきにまてがひ、潟の水に淺深あるべ